

令和5年度  
事業報告書

社会福祉法人うめの木学園

## 1、利用者の状況

月	就労継続B型	生活介護	入所支援	うめの木ホーム	放課後等デイ
4月	663名	1,154名	1,389名	186名	160名
5月	610名	1,153名	1,424名	166名	161名
6月	692名	1,284名	1,390名	150名	174名
7月	709名	1,228名	1,442名	184名	162名
8月	637名	1,133名	1,457名	186名	143名
9月	704名	1,240名	1,402名	182名	153名
10月	723名	1,283名	1,456名	186名	166名
11月	695名	1,226名	1,385名	180名	144名
12月	595名	1,095名	1,401名	185名	150名
1月	640名	1,108名	1,407名	186名	134名
2月	651名	1,117名	1,323名	174名	147名
3月	695名	1,178名	1,438名	182名	159名
計	8,014名	14,199名	16,914名	2,147名	1,853名
平均/日	29.7名	52.6名	46.3名	5.9名	6.5名
前年度平均/日	30.3名	51.1名	46.7名	5.9名	6.9名

月	支援センターうめの木		
	日中ショートステイ	宿泊ショートステイ	相談支援
4月	6名	10名	26名
5月	5名	10名	27名
6月	6名	9名	37名
7月	7名	10名	34名
8月	4名	10名	31名
9月	7名	9名	14名
10月	6名	2名	18名
11月	3名	9名	25名
12月	3名	9名	32名
1月	2名	0名	39名
2月	6名	11名	24名
3月	5名	31名	26名
計	60名	120名	333名
前年度数	71名	47名	316名

## 2、行事報告

月	日	事業内容	備考
4	20	健康診断(入所のみ)	利47名
	27	うめの木喫茶	
5	18	うめの木喫茶	
	19	キッチンカーを呼ぼう(百年珈琲)	利86名
	22	理事会	
	30	コロナワクチン接種(6回目)①	
6	6	コロナワクチン接種(6回目)②	
	8	歯科検診	利83名
	20	リリーウルフF石川との交流会	利83名
	28	評議員会	
	29	理事会	
7	11	お楽しみ会(紬の会音楽コンサート)	入所43名
	11	県民一斉防災訓練	
	24	避難訓練(机上訓練)	
	27	お楽しみ会(はるから音楽コンサート)	通所39名
8	10	輪おどり	利80名
	23	土砂災害避難訓練(机上訓練)	
9	21	キッチンカーを呼ぼう(タルタ、かなやキッチン)	利85名
	26	コロナワクチン接種(7回目)①	
10	10	コロナワクチン接種(7回目)②	
	19	避難訓練	日中活動中・通所棟のみ・夜間想定の3パターンで実施
	26	土砂災害避難訓練	通所棟のみ・夜間想定の2パターンで実施
11	7	婦人科検診	
	9	インフルエンザ予防接種(通所)	
	16	胸部レントゲン	利77名
	21	お楽しみ会(コンサート) カナディアンカフェ	利81名
	27	インフルエンザ予防接種(入所)	
	28	後期定期健康診断 <身体計測、血圧測定> <嘱託医健診、検尿> <血液検査> <心電図>	利77名 対象…入所・通所全員 対象…入所・通所全員 対象…入所・通所全員 対象…入所 対象…入所の40歳以上
12	6	避難訓練	日中活動中・通所棟のみ・夜間想定の3パターンで実施
	14	干支入魂式(代表者のみ)	
	19	クリスマス会	利86名
1	16	左義長	
	16	初詣(代表者のみ)	
	18	土砂災害避難訓練	通所棟のみ・余暇時間想定2パターンで実施
2	14	お楽しみ会(リリーウルフF石川)	利82名

### 3、職員の研修状況

月	日	研 修 内 容	参 加 者
6	16・28	障害施設中堅職員研修	支援員 1名
	26・7/5	障害施設初任者研修	支援員 1名
7	3・10	相談支援従事者現任研修	相談員 1名
	11・19	強度行動障害支援者養成研修	支援員 1名
	28	リスクマネジメント実践研修	サビ管 1名
8	17	成年後見制度研修	サビ管 2名
	17	相談支援従事者現任研修	相談員 1名
	24	サービス管理責任者等更新研修	支援員 1名
9	5・6	強度行動障害支援者養成研修	支援員 1名
	12	公正な採用選考推進研修会	施設長 1名
	14	サービス管理責任者等更新研修	支援員 1名
	19	相談支援従事者現任研修	相談員 1名
	19	アンガーマネジメント研修	支援員 1名
	21・27	障害施設中堅職員研修	支援員 1名
10	20	BCP作成研修	施設長 1名
	27	感染症予防研修会	支援員 1名
	28	アレルギー相談員養成研修	看護師 1名
11	21	認定調査員フォローアップ研修	サビ管 3名
12	6	感染症対策研修会	支援員 1名
	8	虐待防止・権利擁護研修	支援員 1名

### 4、ボランティア受入状況

月	日	活 動 内 容	名 称 等
6	15～19	施設体験	(株)コマニー3名
	20～22	施設体験	(株)コマニー3名
7	19	窓ガラス、外壁清掃	小松加賀たばこ販売協同組合9名
8	5	草刈り	太田氏外3名

※村田理容店による出張散髪は、月2回来園していただきました。

※3B体操西崎氏、月1～2回来園していただきました。

※百年珈琲林氏、月1回来園していただきました。

## 5、施設視察・見学及び実習の受入状況

月	日	受入内容	名称等
6	5~16	福祉施設現場実習	金城大学短期大学 2名
6	12~16	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
6	19~30	職場体験事業	小松特別支援学校 3名
7	24~26	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
7	28	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
7	31~8/2	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
8	7~24	福祉施設現場実習	金城大学短期大学 1名
8	21~25	福祉施設現場実習	金城大学 1名
10	17~20	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
10	23~27	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
10	26~11/13	福祉施設現場実習	石川県立保育専門学園 1名
2	13~3/8	福祉施設現場実習	金城大学 2名

## 6、補助事業の状況

①物価高騰対策支援金(石川県)	1,925,000円
②コロナ感染継続支援事業補助金(石川県)	2,608,000円
③福祉職員処遇改善臨時特例交付金(石川県)	560,856円
④IT導入補助金(中小企業庁)	337,470円
⑤性被害防止対策に係る設備等支援事業費補助金(石川県)	75,000円
⑥北陸電力キャンペーン	40,000円
⑦燃料備蓄推進事業補助金(国庫・エルピーガス振興センター)	22,750,000円
⑧両立支援助成金(石川労働局)	475,000円

## 7、学园内整備事業（自己資金による整備） ※100万円以上掲載

①苗箱洗浄機	1,199,000円
②非常用発電設備	52,250,000円のうち自己資金 29,500,000円
③LAN配線工事	3,795,000円
④固定ネットワークカメラ式	1,226,500円
⑤本館2F女性トイレ改修	1,672,000円
⑥送迎用車両ヴォクシー	2,035,000円

## 8、苦情解決制度利用状況

※2件の苦情申出がありました。

苦情申出者	解決状況	内 容 等
保護者	解決	<p><b>【内容】</b> 通所利用者登園後、本件利用者の母親より「下剤服用により下痢になっているが、通所させたので様子を見てほしい」旨の連絡があり、それに対し「学園ではLサイズまでの紙パンツしか備えがない」ことをお伝えしたところ、「迎えに行けないので、送り帰してほしい」との申し出があった。そこで、職員2名で自宅に送ったところ、「なぜ送ってきたのか」と抗議されたものである。</p> <p><b>【結果】</b> 施設長が、最初の電話でのやりとりの内容を確認した上で母親に電話。母親では「失便があった場合には送ってほしい」という意味で言ったとの返答。 学園として、もう少し意思の確認が必要であったと思われるため、そのことを謝罪し、今後はビッグサイズの紙パンツを備えおくこととする。</p>
保護者 (複数名)	解決	<p><b>【内容】</b> 保護者会長・中川氏を通じて、『利用者が送迎車に乗り込む際、当該利用者がシートベルトを装着する前に発車してしまう運転手がいる。必ずベルト装着を確認してから発車してほしい。』旨の要請があったものである。</p> <p><b>【結果】</b> 即日、『安全運転に関する確認』文書を作成し、送迎車運転に携わる職員に配布。安全運転及び安全確認の徹底を施設長より指示した。</p>

## 9、事故報告状況

分 類	件数	備 考
興奮・他害	20件	
転倒・転落	22件	実人数14人
誤薬	3件	
内、落薬	2件	
ケガ	1件	
不適切行為	2件	
その他	9件	・無断外出   ・連絡確認不足   ・送迎ミス
合 計	57件	

## 10、地域における公益的な取り組み

### (1) 施設の地域開放

- ① 小松市との間で『福祉避難所として民間社会福祉施設等を使用することに関する協定』を締結
- ② 石川県立小松特別支援学校に駐車場を提供（行事等に際し）
- ③ 石川県立小松特別支援学校にミニコンサート会場として体育館を提供
- ④ 地元老人会に活動場所を提供（交流会実施後の会議場所）
- ⑤ 地域の障害者ソフトボールチームの休日練習時にトイレを提供

### (2) 地域づくり活動

- ① 限界集落になっている地元町内の公民館等周辺の草刈り及び除雪
- ② 高齢化が顕著になりつつある稲作農家に対し、低料金にて、育苗箱の引き取り、洗浄、JAへの返却を代行
- ③ 地域行事の際のテント貸し出し、職員派遣、物品販売の協力

### (3) 実施している社会福祉事業の延長上の活動

- ① 生活困窮利用者（通所）の食費免除
- ② 家庭の特別な事情を考慮した営業時間外のサービス提供（早朝等）
- ③ 課題を有する家庭への特別のかかわり（入浴支援等）

### (4) 社会福祉の向上に向けた活動

- ① 福祉系大学・短大及び専門学校からの実習希望者を積極的に受け入れ
- ② 社会福祉協議会等が実施する福祉の仕事体験希望者を積極的に受け入れ
- ③ 地元の特別支援学校生徒の実習及び職場体験の積極的受け入れ
- ④ 地元企業の福祉現場体験の受け入れ

### (5) その他の活動

- ① ペットボトルのキャップをワクチンに交換する事業（エコキャップ運動）に協力
- ② 公益財団法人が実施している義援金活動に協力（職員による100円募金）

※令和2年の新型コロナウイルス感染症の流行以降、一部中断している事業があります。

## 11、職員処遇改善事業

『福祉・介護職員処遇改善加算』及び『福祉・介護職員等特定処遇改善加算』並びに『福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金』『福祉・介護職員等ベースアップ等支援加算』を取得し、職員の給与改善を実施しました。『福祉・介護職員処遇改善加算』においては、算定要件に対応すべく、給与体系見直し等の体制整備を行い、『区分Ⅰ』を維持しました。

併せて、以下のとおり職場環境等の改善に継続して取り組みました。

- ① 働きながら資格取得を目指す職員に対して、勤務の弾力化。
- ② 資格取得者に祝い金の支給。
- ③ より専門性の高い支援技術を取得しようとする職員に対する勤務の弾力化。

- ④雇用管理改善のため、管理者が雇用管理に係る研修を受講。
- ⑤現場職員の腰痛対策を含む負担軽減のための介護機器の導入。(機械浴、エレベーター、電動昇降ベッド、ストレッチャー、いす式階段昇降機等)
- ⑥子育てとの両立を目指す職員のための育児休業制度等の充実。(一般事業主行動計画策定による。)
  - \*男子職員 1名 「育児のための深夜業の制限」を活用中
  - \*女子職員 1名 「育児短時間勤務制度」を活用中
- ⑦マニュアル作成による業務の明確化。
- ⑧障害を有する者でも働きやすい職場環境構築や勤務シフトの配慮。
- ⑨非正規職員から正規職員への転換。
- ⑩短時間正職員制度の導入。
- ⑪職員の増員による業務負担の軽減。高齢者採用による人材活用。
- ⑫OJTチーム発足による、新人職員への仕事面・メンタル面でのサポート。
- ⑬年次有給休暇を、採用後6か月を待たず、採用日より支給。(取得促進支援)
- ⑭見守りカメラ、センサーマットの導入。(異状の早期発見による業務負担軽減)
- ⑮記録業務効率化のためのWiFi環境の整備。

## 12、放課後等デイサービス事業における自己評価の実施

放課後等デイサービス事業について、管理者と現場職員それぞれの視点から自己評価を行いました。

評価結果については、次頁に掲載し、本「事業報告書」をもって公表することとします。

また、自己評価と併せて、保護者にもアンケート調査という形で評価を依頼しました。結果については、集計の上、書面にて保護者にお伝えしました。



		チェック項目	管理者の観点	現場職員の観点	分析結果
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○	○	* 個別ブース、広い活動場、休憩できる部屋等、用途に応じた部屋を備えている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○	○	* 安全確保に必要な人員を配置している。 * 館内はほぼバリアフリー。玄関の段差には簡易スロープを設置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○	△	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○	△	* 定期的に会議を実施し、情報の共有を図っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○	△	* アンケート調査で意向を把握し、意見を反映できるよう努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○	△	* 事業報告書に記載の上、ホームページ及び関係機関のWEBページ上で公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	×	×	* 他事業所との情報交換を積極的に進めるほか、法人内で虐待防止研修を実施。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	△	△	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○	○	* 保護者への聴き取りは、時間をかけて行っている。ニーズや課題を計画に反映させている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	×	×	* プログラムが固定化しないよう工夫している。児童の個性や状態に応じた対応を心掛けている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	△	△	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	△	* 長期休暇にしかできないプログラム作りに工夫している。普段は個別活動を中心に取り組んでいる。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○	△	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	△	△	* 子どもの状況やニーズに応じて個別活動を行っているが、集団活動に各々の希望を反映させることは難しい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	△	△	* その都度の情報共有に努めている。 * 問題が発生した時は、情報の周知に努めている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	△	△	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	△	* 定期的に保護者の希望や意見を聞くよう努めている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○	○	* ガイドラインを参考にしつつ、独自の工夫をしている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	△	△	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	○	* コロナ禍で会議が減少。 * 特別支援学校と隣接しているという立地条件を活かして、情報交換している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○	○	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	—	—	<p>* 会議への参加や、電話、オンライン等を通じて、学校、関係機関、保護者等との連携・情報共有に努めた。</p> <p>* 県の研修制度を利用して、困難ケースの対応について助言をいただいている。</p> <p>* 現状では、外部との交流は難しく、またそれを望んでいる保護者の声はほとんどない。</p> <p>* 電話やメールなどを通して、保護者との情報共有ができています。 一方、保護者支援については対応できていない。</p>
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○	△	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○	○	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○	△	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	×	×	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	△	△	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	○	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	×	×	
	保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	○	
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	×	△	
33		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	○	
34		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	△	○	
35		個人情報に十分注意しているか	○	○	
36		障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	△	
37		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	×	×	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	△	△	<p>* 緊急時のマニュアルは作成しているが、周知については不十分。WEB研修等を通じて、非常時の対応について理解を深めていくこととする。</p> <p>* 避難訓練は火災及び土砂災害を想定し最低年2回、虐待防止研修は年1回実施している。</p> <p>* 事故発生時は、原因分析、経過調査、対策検討を十分行っている。</p>
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	○	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	○	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	—	—	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	—	—	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	○	

○ …はい

△ …どちらともいえない

× …いいえ

— …該当なし